

長崎に泊った。火傷で被爆した頭だけが残る。傍聴の頭だけアラ像。この中から発音が目立つ。がくらんじうの空洞頬は黒く焼け焦げている。現在は浦上天主堂の小聖堂に安置されている。この「被爆のアリヤ像」への賛美歌を私は2001年から歌い続いている。

て多くの市民が亡くなつた。私たち家族は追われられるようになり、母の故郷、神戸に向かつた。そして、その6年後の1月17日、母は友人らと古楽を研究する合唱団



リサイタルで歌う筆者

長崎へ巡礼の旅に出た

一野渉し禾たせの

一聲樂家を志す和は大成

被爆のマリア』歌い継ぐ

◇長崎で被爆したマリア像の賛歌 希望への思い込める◇

生まれ、10歳で日本に帰国。7年前には、駐日ベネズエラ大使に着任していた夫と結婚し、4児を育てながら活動の幅を広げてこられたのは、天主堂の聖マリアの導きだったようを感じる。

◇長崎で被爆したマリア像の贊歌
「被爆のマリア」歌
団を作ろうとしている、
その日、初の会合を自宅
で開かはずだった。とい
るが明け方に起きた阪神
大震災で、私たちの家は
金壊する。

つた。清楚な聖母
まりにかけ離れた
ヨックを受け、直

姿にシ 像とあ
視する 亡くな
の連鎖
い。長
合った
後の01
浦上天
演した
世界貿
テロ攻

うた。人間
を止められ
崎でマリア
日のちょう
主堂でこの
年9月23日

年輪を増やしながら生き
たと知った時、はっと氣
づいた。

歳の時だ。浦上天主堂を訪ねると、大勢の人が何とかを取り聞んでいる。平和を訴えるペラルーシ共和国での展覧会に出品するため、被爆のマリア像が送り出されるところだ。

つてください
マックス後
な祈りは父
びかもしが
父は子供だ
前でゲシユ
られ、ナチ

い」。クライ
の、この静か
自身の心の叫
ない。父の祖
った父の目の
タボに連れ去
スの收容所で

に内緒で英国王立音楽院を受験し、奨学金をもつてることになった。渡航費用を出し合ってくれたのは、学生時代の友人や、時期教師をしていていた職場の仲間たち。父と母は会

爆した1本のカシの木の
断面が展示されている。
爆風によって内部に無数
のガラス片が刺さってい
るのに、外側が無傷な
かがいつも不思議だつ
た。ガラスを包み込みつ

111

1

100

100